



〈連載(250)〉

2012年は日本の  
「現代クルーズ元年」となるか?



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授  
池田 良穂

明けましておめでとうございます。本連載も、今回で250回になりました。

思い起こせば、連載が始まった頃、カリブ海では7万総トンの画期的なクルーズ客船「ソブリン・オブ・ザ・シーズ」が登場していました。筆者は、この船に出会って、新しいクルーズの時代がやってきていることを実感し、すっかりクルーズ客船に魅了されて、本連載のタイトルは「客船よもやまばなし」としました。同じ頃、日本でも「ふじ丸」と「おせあにつくぐれいす」という2隻の新造客船が登場し、「日本のクルーズ元年」と名付けられました。以来、研修クルーズが中心だった日本にも、一般の人々が楽しむクルーズが定着したのはご存じのとおりです。

現在、「にっぽん丸」、「ばしふいっくびいなす」、「飛鳥Ⅱ」が一般マーケットで、「ふじ丸」がチャーターマーケットで活躍しており、日本の中にクルーズ文化が定着したことは喜ばしい限りです。世界一周からワンナイトクルーズまで、日本のクルーズ客船によって多彩なクルーズ企画が実施さ

れています。特に、旅行会社がチャーターした企画が増えて、ほぼ満船という好業績を上げているのも最近の特徴です。この成功の裏には、日本のクルーズ業界、旅行業界が、クルーズ振興の切り札として作り上げたクルーズアドバイザー制度がうまく機能していることがありそうです。

クルーズに関する知識をもったクルーズコンサルタントが既に3500人余りも誕生し、日本全国の旅行会社の最前線でクルーズを販売しており、1隻まるごとチャーターという企画も次々とでていきます。日本外航客船協会が、毎年選定している「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」の選考に携わっていますが、去る12月の受賞の中には、沖縄の旅行会社が「ばしふいっくびいなす」をチャーターして実施した沖縄起点の屋久島クルーズや、東北のJTBが「ばしふいっくびいなす」をチャーターした青森起点の利尻・礼文クルーズが受賞をしました。東京、大阪等の大都市圏に限定されていたクルーズマーケットだけでなく、地方でのクルーズマーケットの拡大が着々と進んでいるのが、この受賞からもよく分かります。

このように日本のクルーズ客船の活躍と共に、海外のいわゆる現代クルーズ客船が日本のマーケットに進出しつつあることも嬉しい傾向です。今まで日本には存在しなかつた格安でかつ上質なクルーズがようやく日本近海にも登場しつつあるのです。本当は、2011年から本格的な進出が予定されていましたが、東日本大震災の発生で、1年遅れになりましたが、2011年のゴールデンウィークに設定されたロイヤル・カリビアン・インターナショナルの運航する7万総トン型「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」のクルーズは、JTBの創立100周年記念チャーターとなり、そのクルーズは発売日に即日完売という快挙を挙げたといえます。1800人定員のクルーズが日本人であつたという間に満船になったのです。

これまで、3万トン級、5万トン級のクルーズ客船を東アジアに投入していたコスタ・クルーズも、2012年からは7万トン型船を投入しますし、ロイヤル・カリビアン・インターナショナルも14万トンの「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」を投入し、同船は神戸や長崎に定期的に寄港することになっています。

いよいよ、日本にも本格的なアメリカ育ちの現代クルーズが進出することとなりそうです。もし、2012年から日本に現代クルーズが進出した場合のクルーズマーケットの成長を予測してみました。ドイツとおなじような成長をするとすると、10年後には日本のクルーズ人口は130万人余りに達するという結果がでました。これはあくまで、短期(1週間以内)の定点定期発着の現代クルーズが年間を通じて日本に導入されたとした場合の予測です。

中国を起点とする定点定期クルーズ、さらに韓国を起点とする定点定期クルーズについても同様の発展が予想され、日本の港はたくさんの大型クルーズ客船の寄港で賑わうことが期待されます。

現在、東アジアに投入されている現代クルーズ客船は、北米および欧州のクルーズマーケットで使用された船が転配されてきており、いずれも船齢10~15年程度と比較的高齢です。東アジアのクルーズマーケットが成長し、10隻を越す大型クルーズ客船が就航するようになった頃には彼女たちの代替が必要となります。こうした船をぜひ日本の造船業で建造して欲しいものです。7~12万トン型としても400~600億円の高額船を毎年2~3隻は新造されるようになるに違いありません。

その頃には、日本の4隻のクルーズ客船も船齢30年を越しますので、代替建造が必要となります。こちら、どのような船になるのかが楽しみです。



2012年から東アジアクルーズに投入される14万トンの「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」。神戸、長崎などに寄港する予定。